

平成27年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492600463	事業の開始年月日	平成24年10月1日	
		指定年月日	平成24年10月1日	
法人名	医療法人社団 愛友会			
事業所名	小規模多機能 上矢部			
所在地	( 252-0201 ) 相模原市 中央区 上矢部 2-18-18			
サービス種別 定員等	<input checked="" type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	25	名
		通い定員	15	名
		宿泊定員	5	名
		定員計		名
		ユニット数		ユニット
自己評価作成日	平成28年2月29日	評価結果 市町村受理日	平成28年5月25日	

基本情報リンク先 <http://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokanri.nsf/pSearch3?Open>

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が住み慣れた地域で、いつまでも安心して生活できるように支援しています。  
利用者様の思いを大切にしています。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 湘南リハウスビル4階		
訪問調査日	平成28年3月16日	評価機関 評価決定日	平成28年5月18日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

医療法人社団運営の事業所はJR横浜線矢部駅から徒歩15分、バス道路沿いに立地した広い駐車場のあるL字型の2階建てです。玄関を入った左側の1・2階が小規模多機能、右側の1・2階がグループホームです。事業所は365日、訪問・通い・泊まりのサービスを提供しています。

<優れた点>

室内には機能訓練を促すリハビリ機器（電位治療器・下肢筋力トレーニング機器・マッサージ機器）を配置して利用者が順番に活用しています。職員は利用者全員に声掛けをして一人ひとりの声を聞きながら表情・仕草をさりげなく把握し、和やかな空間を作り出しています。運営では送迎の時間変更や食事・訪問・泊まりの利用など柔軟に対応し、利用者や家族の思いを尊重して在宅生活を安心して過ごせるように努めています。

<工夫点>

併設しているグループホームと合同で運営推進会議の開催をしています。職員は虐待防止・身体拘束、行事・レクリエーション、環境・物品、衛生・美化の委員会に入り、合同の行事・研修など連携を取りながらサービスの質の向上を心がけています。泊まりには夜勤専門職員が日勤の申し送りノートなどで情報を共有し、対応しています。月1回のカンファレンス会議は日勤者全員が出席し、事前に所定の書式に気になる利用者の現状と検討事項が記載された案件を基に検討しています。情報を共有し、適切なサービスが提供できるよう工夫しています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	小規模多機能 上矢部
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念を常に見える場所に張り、職員間で共有している。	月1回のカンファレンス会議は全員が出席し、理念を確認しています。理念は事務所や居間に掲示しています。笑顔と安心と信頼関係を持てるように職員同士や利用者への声掛けを心がけ、和やかな雰囲気です。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	自治会の行事（夏祭り・盆踊り・運動会）には、毎回参加している。散歩等外出時には、挨拶をしたり、話をしたりしている。	地域の盆踊りの輪にも参加しています。グループホームと合同で開催している茶話会は、近所の人でも大勢参加して盛り上がり、楽しく過ごしています。ボランティアの活動日は演芸・ウクレレ・習字など合同で実施しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域のケア会議に出席したり、いつでも相談等を受けていることをお知らせしている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議での意見を、カンファレンスの場で、共有し改善している。	グループホームと合同で年6回開催しています。開催日は家族・自治会・民生委員・地域包括支援センター職員が出席しやすいように、平日3回と日曜日3回実施しています。事業所の近況報告と認知症についての質問などがあり、管理者が応答しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	高齢者支援センターとは、常に連絡を取るようにし、報告を行っている。	高齢者支援センターには運営推進会議録・利用状況の情報を提供し「上矢部たより」を送付しています。市所管課職員が自宅訪問時に管理者も同席しています。市の事例検討会研修に出席し、その内容は内部研修で全職員が共有しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	虐待防止・身体拘束委員会を作り、研修を行い、職員全員に周知できるようにしている。	グループホームと合同の虐待防止・身体拘束委員会が企画し、研修会を実施しています。2カ月に1回のカンファレンス時に、日常の具体的なケア事例から、危険回避の「座っててください」の言葉掛けも虐待になることなどケアの対応について学んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止・身体拘束委員会を作り、研修を行い、職員全員に周知できるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度の研修を行い、制度利用者に生かしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時の説明や、改定時の同意書をもって、説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の声には、常に耳を傾け、来所された家族・送迎時での家族には報告をしながら、要望等をお聞きしている。	連絡ノートや送迎時の家族との会話から利用者の思いを把握しています。家族から「朝風呂が好き」と聞いて、バイタル後1番に午前の入浴をしています。訪問ケアの時間は30分ほどですが、困っていること・できる事などを家族と話し合っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員の個人面談を設けている。 いつでも管理者に話しやすい環境を作っている。	環境・物品、美化・衛生、虐待防止・身体拘束、行事・レクリエーションの委員会があり、職員は必ず1つに入り運営に携わっています。定例会は全員出席し、カンファレンスは10日前から利用者の現状と検討事項を書式で提出し、情報と支援を共有しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	月1回の管理者会議での報告を行い、代表者への要望を上げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内での、リーダー研修を行い、スキルアップの場を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	連絡会に出席し、他事業所との情報交換を行っている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	通い開始の前に、本人と面会し、希望ならば、自宅訪問で信頼関係を築いてから、通いにつなげている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	利用開始前に、家族には、まず困っていることを、伺うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	アセスメントを行い、必要なサービスのマネジメントを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	通い時の本人を支援するだけでなく、自宅にいる本人も、訪問として支援している。 24時間電話連絡できるようにしている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	連絡帳で、状態を共有しながら、職員の出来ることと、家族の出来ることを話している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人や近所の人たちとの関わりが、継続できるようにしている。	利用者は病院からの紹介が多く、病院でのカンファレンス時に同席し、入院状況や本人・家族から入院前の様子を把握して支援をしています。日中は友人が5～6人来訪したり、独居の人は通いなれたところに行き、支払いを支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士が話しやすいように、職員が間に入り、環境づくりをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用が終わった後でも、いつでも相談等、立ち寄っていただけるように伝えている。 他施設に行った方を、利用者様と一緒に訪問している。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の思いに傾聴し、なるべく希望に添うよう 支援している。	本人の思いが表現できる人は、ここでしたいことを行っています。来ている状況を理解していない人は家族の希望で支援をしています。職員は利用者によってもらえることを見つけています。中には、事業所に働きに来ていると思い、必ず食後の食器洗い・拭きをする人やモップで掃除をする人もいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族から 今までの生活を聞いて、その暮らしぶりを継続できるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	家に居る時、通いの時、それぞれの本人が出来ることを把握してなるべく自分で出来るように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月 一人一人のモニタリングを行いカンファレンス場で、検討している。	職員は定例会の10日前から利用者ケアで検討する案件を書式に記載しています。ケアの共有化によるカンファレンス会議録・モニタリング、支援記録・連絡ノート・申し送りノートを基に、また家族の意向を聞いて、6ヵ月ごとにケアプランを見直し作成します。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアプランを記した、個人記録を作成している。 職員間の情報は、連絡ノートを使って共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	利用時間や、送迎の時間等、その方に合わせ、調整しながら支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近隣の方・友人・民生委員等と一緒にその方の生活を支えるようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	今までのかかりつけ医を継続できるようにし、受診時には付き添うようにしている。	通院は、家族が付き添えない場合は、職員が同行しています。受診の状況は、家族へ電話などで報告し事業所と共有しています。自宅での服薬は、独居の人など一人ひとりの生活状況を考慮して適切に服用できるように支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回の訪問看護の時に、相談するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、サマリーを基に、情報交換している。退院時のカンファレンスには、出席している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時には、家族と週末期についての話をしている。	重度化した場合などは、家族や医師、関係者と協議し、医療機関で対応するという方針があり、契約時に説明しています。重度化した場合や終末期に向けた対応について職員が不安なく対応できるように事業所内外の研修や会議で研鑽を図っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事故発生時のマニュアルを作り、定期的な内部研修をしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	利用者と共に避難訓練を行い、近隣にも呼びかけを行っている。	夜間を想定した避難訓練を含めて防災訓練を年に2回実施しています。うち1回は消防署の指導のもとで実施しており、消防車も来ます。消防訓練の際は近隣にも呼びかけています。非常時のための食料と備品の一覧表を備えて備蓄しています。	防災訓練では消防車も来ている事もあり、近隣の関心も向いていると考えられます。今後は近隣の人々にも訓練に参加してもらい、地域との相互協力関係が進んで行く事が期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	尊厳を大切にし、その方に合った言葉かけをしている。	行動制止のスピーチロックなどについて所内会議や研修で認識を深め、振り返りを行っています。利用者の尊厳を大切に、特性に合わせて言葉掛けをし、利用者の明るい反応を引き出しています。呼称については利用者の好む呼びかけをしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自分の思いを話せるような環境づくりをし、本人には、選択できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個々の生活スタイルを重視し、常に希望を伺っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	身に着けるものは、なるべく自身で選んでもらっている。 ヘアカットの希望を支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	その方に合った食事形態にし、調理の段階から、片づけまで 出来ることはして頂いている。	食事形態などは利用者に合わせて食べやすくを心がけています。利用者は協力して食器拭きや片付けなど、できる人が積極的に行っています。食中毒防止に食前などの手洗いの徹底を行っています。所内研修でノロウイルス対策など感染症予防にも取り組んでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	カロリー計算された食材を、一人一人に合わせ、調理している。 食事摂取量や水分量は、チェック表を作成し、把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアは、一人一人チェックしている。 訪問歯科と連携し、状態観察している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	なるべくトイレでの排泄が出来るように支援し、声掛けを重視している。	一人ひとりの排泄パターンや気配を感じとることに努めています。トイレでできるように声掛けをし、オムツを減らすようにしています。おなかのマッサージや、機器を使った運動などで排便が改善するように取り組んでいます。 牛乳なども摂るようにしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分や運動を心掛け、排泄チェックをお子になっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	時間を決めず、一人一人ゆっくりと入浴できるようにしている。	午前あるいは午後の好きな時間にゆっくりと入浴できるようにしています。 入浴剤を使うなど気分よく利用できるような努めています。入浴後は必要により保湿剤を塗布するなどのスキンケアを行っています。希望によって同性介助を行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	起床・消灯時間は決めずに、個室にて自由に休めるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	利用時だけでなく、在宅時での服薬も管理している。 服薬チェック表利用し、受診時には主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用時には、出来ることはして頂き、役割として、自信が持てるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩や買い物等 外出の機会を作ったり、車を使って、ドライブ等遠方への気分転換をしている。	陽気の良い日は、事業所前の広場に椅子など持ち出して外気浴をし、気分転換を図っています。散歩や買い物などで日常的に外出し、社会とのつながりを大事にしています。車を使って花見や鯉のぼり見学などに出かけ、季節を感じ、楽しんでもらっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自分で財布に管理をしたり、買い物や受診時には、自分で支払いが出来るように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は、自由に使えるようにしている。 手紙のやり取りも自由に出来るようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	トイレを表示し、分かりやすくしたり、自由に居場所の選択が出来るようにしている。 季節の張り紙や、カレンダーを作成している。	リビングや廊下などは、毎日及び随時に清掃をして清潔の保持に努めています。特にトイレや手すりなどは消毒剤を使用しふき取りをしています。リビングにマッサージ器や下肢トレーニング器などがあります。職員支援のもとで無理のない運動が行われています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	自由に機能訓練機器を使用でき、座席を決めずに、くつろげるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みの品や、テレビを持ち込み、本人が安心できるようにしている。	泊りの部屋は2階に5部屋あります。シーツ等の交換を定期・随時に実施し、清潔の保持に努めています。利用者と相談し、居心地よく過ごせるように努めています。利用者の持ち込荷物が多い場合は収納整理について工夫検討が必要な状況です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	バリアフリーや手すりを設置し、安全に生活できるようにしている。 職員と一緒にいたり、見守り出来るように配慮している。		

平成27年度

## 目標達成計画

事業所名 小規模多機能 上矢部

作成日： 平成 28 年 5月 25日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	29 35	地域の方々との交流の機会が少ない。	事業所の存在を理解して頂き、事業所から 地域の方々に発信していくようにする。	回覧板やチラシを利用し、地域住民に理解して頂き、行事等の協力を得る。	10ヶ月
2	52 53 54 55	個別的なケアを増やしていきたい。	個人を尊重し、一人一人が 安心して過ごせるように支援していく。	一人一人の希望を傾聴し、その方に適したケアを提供する。	10ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月